

THE S.P ECO NEWS



「今日から貴方もECOしちゃおう？」

平成20年度環境重点管理項目決定

今回のECO情報



「大江戸八百八町はリサイクルワールド！」



江戸時代の庶民の生活は、現代人がイメージする以上に高度な社会が営まれていました。同じ時代のロンドン市民に比べて識字率は高く、近年の研究では世界で最高水準の社会システムが既に構築されていたことです。

このように高度な社会システムを形成していた江戸時代ですが、最も驚くべきことは日用品の殆どがリサイクルされていたことです。現代の日本人が忘れてきている「もったいない」の精神により、修理や再生業が社会の枠組みにしっかりと根付いていました。使い捨て文化を生きる我々は、この時代のリサイクルに学ぶべきことは多いでしょう。

では、江戸時代のリサイクルにはどのようなものがあったのでしょうか。

現代では古着屋というとプレミアム物を扱う店が多く、リサイクルとは異なる感覚ですが、江戸時代では布は手織りによる貴重な品物であったため、古着のみならず切れ端までが商品として売られていました。西洋の洋服は布地を曲線で裁断していますが、日本の反物は直線で裁断しているので、着古した着物をほぐせば別の形としても利用できたのです。

茶碗などの瀬戸物が割れた場合でも、漆や白玉粉で接着して再生させていました。美術館で見られる重要文化財の陶磁器は、これらの手法で手直しされた物の方が高価な値をつけていることがあります。この一例からも江戸時代の修理の技術が高かったことが窺われます。

その他にも桶や傘、下駄などが修理され再生されていましたが、これらの修理職人と同様に回収業も発達しており、古紙の回収は勿論のこと、傘の古骨、古釘、湯屋（銭湯）の木拾い、古樽買い等々、ありとあらゆる物が回収されていました。そのため大江戸八百八町は、ゴミが落ちていない大変綺麗な町だったと言われています。

このように江戸時代の町民達はリサイクルと密接な暮らしをしていました。彼等の血を引く私達も見習って、「もったいない」精神を受け継ぎ、環境活動を実施しましょう。

昨年12月の環境委員会にて、平成20年度の環境重点管理項目が決定しました。注目すべきは、今年から実施される京都議定書のCO2削減枠を達成すべく、全社共通管理項目としてCO2の排出量と固定量の把握、廃棄物の排出量の把握を掲げたことです。

各部門の重点管理項目もそれぞれの特長が現れています。

石油事業本部は、環境ハイオクガソリンの増販を昨年に引き続き実施します。ガソリンの販売数量に於けるハイオク比率は、55%を超えることが当たり前となった感がありますが、これは実に驚異的なことです。殊に原油高に伴う消費者の買い控えが続くなか、半分以上を環境ハイオクが占めていることは、スタッフの販売力と環境に対する意識の強さを物語っていると言えるでしょう。

不動産事業本部は、緑化運動の推進を計画にしており、前年比で5%増を目指します。他にもISO14001を取得しているテナントに対して、共益費の10%割引も掲げています。これは環境問題に積極的なテナントから大いに評価を頂けるでしょう。

食品事業本部の目玉は、なんといっても食の安全管理による事故発生ゼロ目標です。消費者は以前から安全で安心できる食生活を求めており、この重点管理項目はお客様の要望に応えたものと判断されるでしょう。事故の重度に応じて具体的な数値として管理することで、各スタッフに緊張感と当事者意識を喚起することも期待できます。

最後に経営推進事業本部ですが、この部門は他部門よりコピー用紙を多く消費するので、各種紙製品の削減を計画としています。その他にもグリーン購入の促進を掲げていますが、昨年は低い水準に終わったので、今年は前年比5%増を達成するために、全スタッフの意識作りから始めるとのことです。また、同事業本部に所属する商事部は、ネイティブ商品の増販を掲げて、前年比10%増を目指します。

今年度は当社がISO14001を平成16年に取得して4年が経過します。環境委員のみならず、全社員が環境問題を意識して業務に取り組んでおり、より洗練された環境活動が見込まれています。

各部門とも自分達が定めた環境計画の達成に向けて、積極的に活動に参加しましょう。



今年のルールブックだよ！

「自然からの音は右脳で聴くの？それとも左脳？」

「日本人の脳」コラム

大脳生理学の権威である某教授によると、日本人の脳による言語処理は特殊であると言います。例えば欧米人では、虫の音や風のそよ音、小川のせせらぎは右脳で処理するが、日本人は左脳が反応するとのことだ。知つてのとおり、右脳は別名を非言語脳、左脳は言語脳と呼ばれる。という事は、我々日本人は自然界が発する音を、自然が奏でる言葉としてきいているのだ！古来より日本人は移りゆく四季の変化に敏感であった。自然からの囁きに耳を傾け、日常生活に取り入れてきた。そのことが他の民族が持ち得ない、独特の感性を身に付けたのだらうと想像できる。我々は自然から授かったこの素晴らしい感性を退化させないためにも、大いに環境活動に活かすべきではないだろうか。